

会 議 録

1 会議名

令和7年度 第10回新道区地域協議会

2 議題（公開・非公開の別）

(1) 自主的な審議（公開）

- ・自主的な審議事項について

3 開催日時

令和8年1月27日（火）午後7時00分から午後7時50分まで

4 開催場所

上越市市民プラザ 第一会議室

5 傍聴人の数

なし

6 非公開の理由

なし

7 出席した者（傍聴人を除く。）

- ・委員：池亀副会長、草間委員、越水委員、佐藤委員、千町委員、田木委員、
船崎会長、山本委員、横田委員、横山副会長、渡邊委員、（欠席3名）
- ・事務局：中部まちづくりセンター 井守所長、村山副所長、渡邊係長、鈴木主事

8 発言の内容（要旨）

【渡邊係長】

- ・上越市地域自治区の設置に関する条例第8条第2項の規定により、委員の半数以上の出席を確認、会議の成立を報告

【船崎会長】

- ・会議の開会を宣言

【渡邊係長】

- ・上越市地域自治区の設置に関する条例第8条第1項の規定により、会長が議長を務めることを報告

【船崎会長】

- ・会議録の確認：越水委員に依頼

次第2 議題「(1) 自主的な審議」の「自主的な審議事項について」に入る。本日の審議の進め方について、事務局の説明を求める。

【村山副所長】

・資料No.1 に基づき説明

本日は、自主的な審議の参考とするため、研修として新道地区活性化委員会の取組の話をお伺いした。研修での話も参考に、既存団体の連携・交流・支援に関する取組、地域で共通する取組や統一感のある取組となりそうな具体的なアイデア、前回の意見の補完や新たな提案などについて、一人ずつ発言していただきたい。

【船崎会長】

ただ今の説明について、質問はあるか。

(発言無し)

それでは、草間委員から順番に発言をお願いします。

【草間委員】

これまでの課題と新道地区活性化委員会の活動内容を照らし合わせると、「誰もが通りやすい道の確保」、「新道区からの眺望の良さ」、「地域一帯が花で彩られていること」の3点は植栽を中心とした同じような内容だ。関係団体と手を組んで、北部、中部、南部の交流が深まるような、植栽に関連した取組を進めることを提案する。

【越水委員】

一つの課題に対し集中的に活動することが大事。例えば、新道地区活性化委員会の植栽活動はまだ2年目で、決められた担当者しか参加していない。その解決策として、園児や小学生などにも参加してもらおう。それを根付かせてから次の課題に進んではどうか。その後、例えば南部の人が北部に植栽に行くようなローテーション形式で植栽活動を行えば、地域の活性化につながるのではないかと。

稲田の町内会では毎年、稲田小の4年生約50人が河川敷で地域の人たちと共に植栽活動を行っている。稲田橋花いっぱい実行委員会、上越市、高田河川国道事務所も協力しており、他の地域とは体制に差がある。課題については地域の方と協力し、一定の結果が出てから、次のステップに進んではどうか。

【佐藤委員】

新道地区活性化委員会のお話を聞かせていただいた。組織体系に充て職が多すぎると、町内会長協議会が中心となって活動しないと無理ではないか。町内会長協議会と情

報を共有し、活動を活発にしていくことが必要。

「誰もが通りやすい道の確保」、「新道地区からの眺望の良さ」については、ハードウェアの部分があり、基本的に植栽の場所や景観の整備も高田河川国道事務所が関係してくる。その調整をどこの団体が行うのか。その課題について、いつ、誰が、どこで実施するのかを協議しなければならない。

「南～北間の地域間交流」新道地域全体での交流イベントの実施について、南部では稲田むすぶプロジェクトが、中央橋に花を植えたりしているが、北部にはそういう活動が無いと聞いている。私は先日、地元大手商業施設の社長と会う機会があり、北部でこういうものを何か提案していただけないかと依頼し、後日相談することになった。例えば、稲田と富岡のそれぞれ核となる団体等に、私たち地域住民がどのように協力していけるかをまず考え、意見交換をして一緒に活動できればよいが、北部には組織がない。まずは、北部に核となる組織を作ってはどうか。

あとは、全体的に誰が、どこで、どのような組織が、どのように活動するのか、計画を立てて進めないと上手くいかない。

【千町委員】

令和5年に発足した新道地区活性化委員会について、発足前年の7月に地域協議会が主導してプロジェクト委員会を立ち上げた。各団体から数名ずつ集まっていたが、地域協議会で協議した。私も役員の一員である。来年度、新道地区活性化委員会では地区対抗ポッチャ大会を予定している。それをどういう形でまとめるかが課題である。その中で新道地区の22町内会が、「南～北間の地域間交流」、「誰もが通りやすい道の確保」、「新道地区からの眺望の良さ」、「地域一体が花で彩られること」について、どういう形で進めるか。来年度には、新道地区町内会長協議会もそれに向かった形で進めていく。

【田木委員】

この資料を見て、私も最初は、新道区は道がテーマではないかと思ったが、このように課題解決策を抽出した今は、「南～北間の地域間交流」を審議のテーマにした方がよいと思う。

【山本委員】

植栽については、保育園の園児とボランティアの方が一緒に活動することで、交流が生まれる。小学校では1年生が朝顔を植え、自分で育てている。小学校、保育園の子供たちと保護者にも参加してもらえるとよいと思う。「こういう活動をするので保護者ボ

ランティアをお願いする」と保育園や学校から案内を出してもらい、ボランティア、保護者と子供たちが植えることで、交流の幅が広がるのではないかと。

先ほど、富岡地区は稲田地区とは状況が違うのではないかとという発言があった。先回の研修で、公民館事業で夏の勉強会を初めて芙蓉荘で行ったときに子供たちが参加したとの話があった。今度、芙蓉荘が無くなってしまいが、せっかく子供たちに知ってもらえるようになってきたので、どこが会場になるか、富岡小学校か分からないが、是非続けてほしい。会場は変わるが、勉強後に夏休みはカレーではなく、アイス 1 本でもご褒美として用意することで子供たちが集まり、交流の場ができるのではないかと。

【横田委員】

これからテーマを絞っていくに当たり、新道地区活性化委員会を更に強化するには、どういう方法があるのか。植栽や他のテーマを進めるといっても、新道地区町内会長協議会と新道地区活性化委員会が問題意識を共有しないと、結局一部の人に負担が偏ってしまう。協議会としてアイデアを出しても難しいし、やらない方がいいこともあるかもしれない。各町内にもそれぞれの取組があり、できない理由もあると思う。これを越えて新道地区活性化委員会ができた以上、これをどう活性化し、更に発展させていくか。地域協議会がどういうテーマでまとめていくかにしても、新道地区活性化委員会の協力がなければ、問題解決にはならないのではないかと。

今まで植栽等について協議されてきたが、規模とか期間の問題がある。富岡ではコスモスの植栽を他の団体が行っているが、他の地域における植栽活動の現状把握も行い、皆でできるものを集約していく方法もある。

新市長の公約で、桜の花でいっぱいになりたいと言われていた。やるのであれば、関川の河川敷辺りに植えられそうな土地等がある。新道地区に関わる河川敷で、そういうこともテーマにしてもよいのではないかと。

【渡邊委員】

私も、地域活性化にはやはり植栽が大事だと思う。地域の活性化に向けて、小学生や園児、その保護者と和気あいあいと活動できればと思う。それには先ほどの発言のとおり、おやつや飲み物を用意すると人は集まる。「稲田むすぶフェスティバル&花火大会」では、たくさんの方が来場する。やはり、お祭りは人が集まると思う。花の植栽もお祭りのように企画して、皆さんから回覧板を回してもらい、水やりの当番をごみ当番のように回して、地域の方から一度参加してもらえば、人も集まるのではないかと。

【横山副会長】

新道地区活性化委員会でせっかく取り組み始めたこの植栽活動について、いかに活性化を図るかというところから進めてはどうかと考える。そのためには、ただ花を植えるのではなく、一つテーマをそこに見出す。例えば、東京辺りでは七福神巡りという習わしがあり、七柱の神様がまつられている寺社を回る。七福神を河川敷や、南部、中部、北部のどこかに並べ、そこにある程度の目立つ花を置いて、皆でラリーを楽しむ。南北を回る活動と植栽活動を合わせてはどうか。ウォーキングをしながら健康づくりにもなり、老若男女が楽しめる行事にもなると思う。先ほど桜の話があったが、桜の時期に七福神のウォークラリーを催して地域外からも人を呼び込む。そして、稲田の商店街や北部の大型小売店等と協力し、地域ぐるみで行事を開催してはどうか。夢物語かもしれないが、やろうと思えばできそうな感じもする。新道地区活性化委員会と地域協議会を核に動くことで、それに応じて他の組織も協力してくれるのではないかな。必要に応じて、新たに組織ができていくのではないかな。

【池亀副会長】

今まで南部から北部まで、どう一体感を持って活動を進めるかについて論議をしてきた。皆さんの意見を聞くと、人によって意識や意見がかなり違う。私自身、稲田に住んでいるので、稲田のことしか分からない。Step4「植栽等による新道区内の関川河川敷の景観整備」について、共通する目標を一時的に設定し、それぞれの景観を確認する。例えば、どういう植栽やどのような施設があるのか、もう一度地域を確認した中で課題を整理してはどうか。

他の団体との交流については、地域協議会で論議をしながら、まずは沿道での植栽活動を中心に考え、その広がりとして、どういう地域あるいは団体と交流できるのか、課題整理をしてはどうか。私が自分の地域しか知らないということもあるが、まだ時間があるので、一体感を持ってつなげていくことから進めてはどうか。

【船崎会長】

前期の地域協議会でも新道区において、どのように交流し一体化したらよいか協議した結果、新道地区活性化委員会ができた。私もそのメンバーに入った。皆さんの発言にもあった、活性化委員会をどのように持っていくかについて、私は最終的には新道地区活性化委員会がいろいろな団体を取りまとめ、機能させていく形を考えている。

稲田むすぶプロジェクトができたのは、稲田小学校の児童たちとその時のPTA活動

が始まりで、地域活動支援事業を利用したいという話から、当時の地域協議会長の私に相談があった。地域協議会で中央橋の花壇について協議していたこともあり、稲田むすぶプロジェクトが実行した。イベントの最後に花火を打ち上げたいという話もあり、それには市の予算では足りないため、地域の事業所から協力してもらってはどうかと提案した。また、稲田小だけではなく、富岡小とも一緒に活動してはどうかと提案したが、事情により、稲田小のみで活動することになった。次回の委員研修では、稲田むすぶプロジェクトを予定しているおり、詳しい話が聞けると思う。

新道地区活性化委員会については、小学校や保育園と一緒に活動する案もあり、2年目から進めたいと保育園に話しに行った。しかし、保育園も多忙のため、一昨年と同じく、ボランティアを考えなければならないと米山会長と話している。今年は、高田農業高校の生徒に協力を依頼してみてもどうかとの話もしている。

地域協議会での進め方として、河川敷の植栽については、南部、中部、北部の合同で進めながらの交流は難しい。南部と中部は小学校を通じて交流があるが、北部とは全く交流がないので、南部・中部と北部をつなぐ地域間交流を考える必要がある。それならば、今年は新道地区活性化委員会でポッチャを企画するので、その機会を活用してもらい、活動内容も考えながら進められれば、交流が進むのではないか。地域協議会としても進めやすくなると思う。

【渡邊係長】

事務局から補足する。新道地区活性化委員会は、前期の地域協議会による課題解決策がきっかけで設立された、独立した団体である。発足に際して、地域協議会から米山会長に相談させていただいたが、現在、地域協議会はその活動に指示やアドバイスをする立場にない。何か取り組んでいただきたいことがあれば、それはお願いという形になる。もちろん、次回の稲田むすぶプロジェクトも全く別の団体で、資金面などでも自身のアイデアで、新道地区活性化委員会とも全く違うアプローチで頑張っている。そういう各団体の活動や取組からアイデアをもらうとの観点からご発言いただきたい。

【千町委員】

以前は市から財源が各区に、新道区には 720 万円が配分された。ところが、市政も変わり、昔と今で違うのも事実。一つのプロジェクトに対し、活動の財源確保が一番のネックになってくると思う。

【渡邊係長】

補助金額の上限が無くなり、審査方法が変更になっただけで、新道区で 720 万円以上使ってはいけないということではない。活用している団体が今年度は 2 団体、合計 300 万円ぐらいというだけで、以前より予算が少なくなり活動できなくなったということではない。誤解のないようにお願いしたい。

【船崎会長】

地域協議会としてどのような課題に取り組んでいくのか。皆さんの意見を聞くと、視点が違う。視点を明確にしていかないと、解決すべき課題の優先順位が決まらない。人によって考え方が違うので、話し合いの中でどういう方向へ持っていくか、どういう課題を新道地区としてクリアしていくかを考えながらやっていかなければならない。

【佐藤委員】

13 区の総合事務所では、学校や保育園に何か依頼する場合、校長や園長が変わっても教育・文化グループが学校に連絡を取り、対応してくれる。新道地区は直接、教育委員会が関わるのかどうかは分からないが、中部まちづくりセンターが全部やるのかといたら、それも難しい話だと思う。個々に学校に行っても、校長の考え方や捉え方によっては引き受けるところもあるが、やらないところもある。そういう考え方の中で、やはり統一したものが必要だ。例えば、この地区ではこういう考え方で活動を進めるのがいかがでしょうかという問いに対して、行政から依頼すると校長や園長から回答をもらえるのではないかと。その方法や仕組みをもう一回整理して、何をテーマとして取り上げていくのかを協議できればと思う。

【船崎会長】

新道地区には 2 つの小学校と 3 つの保育園があり、教育委員会には行かずに、直接、各学校の校長に話をして対応してもらっている。保育園も同様で、そういう面では不十分だと思う。地域協議会として、今後はそういうことも考えながら、どういうふうに導いていくのか、我々の課題としてそれを最終的にはどこに提言していくのかということになる。これから全てまとめていかなければならないので、もう少し時間がかかる。

他に意見はあるか。

(発言無し)

以上で、次第 2 議題「(1) 自主的な審議」の「自主的審議事項について」を終了する。

次に、次第 3 その他「(1) 次回開催日程」に入る。事務局の説明を求める。

【渡邊係長】

- ・次回の協議会について説明

— 日程調整 —

- ・次回の地域協議会：2月24日（火）午後7時00分から
上越市市民プラザ 第一会議室（予定）
開会前に委員研修を実施予定

【船崎会長】

以上で、次第3その他「(1) 次回開催日程」を終了する。

次に、次第3その他「(2) その他」に入る。

その他、何かあるか。

(無しの声)

- ・会議の閉会を宣言

9 問合せ先

総合政策部 地域政策課 中部まちづくりセンター

TEL：025-526-1690

E-mail：chubu-machi@city.joetsu.lg.jp

10 その他

別添の会議資料もあわせてご覧ください。